

氏名	黒目 学
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第 4305 号
学位授与の日付	平成 21 年 6 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	Risk factors for high-grade dysplasia or carcinoma in colorectal adenoma cases treated with endoscopic polypectomy (内視鏡的切除例からみた高異型度腺腫・早期大腸癌の 危険因子の検討)
論文審査委員	教授 谷本 光音 教授 小出 典男 准教授 猶本 良夫

学位論文内容の要旨

内視鏡的に切除された大腸腺腫患者において、高異型度腺腫を含む早期大腸癌を合併する危険因子を検討した。2003 年 1 月から 2004 年 8 月までの 1 年 8 ヶ月の間に行われた岡山大学医学部歯学部附属病院および関連協力病院における内視鏡的切除例 889 人を対象とした。内視鏡的切除を受けた患者 889 人のうち、高異型度腺腫以上がみられたのが 72 人 (8%)、すべて低異型度腺腫であったのが 817 人 (92%) であった。また、切除された腺腫 1486 個中、高異型度腺腫以上は、75 個 (5%)、低異型度腺腫は 1411 個 (95%) であった。これらの結果を多変量解析 (ロジスティック解析) にて検討したところ、患者背景因子として、女性 (OR 2.25 95%CI 1.34-3.76)、腺腫が多発 (OR 2.15 95%CI 1.15-4.00)、高齢 (OR 1.02 95%CI 1.00-1.04)、血便の主訴 (OR 2.57 95%CI 1.34-4.92)、腫瘍因子として腺腫が 10mm 以上 (OR 10.83 95%CI 5.86-20.0)、表面型 (OR 3.91 95%CI 2.20-6.95)、左半結腸に存在すること (OR 1.80 95%CI 1.03-3.13) が高異型度腺腫以上を合併する危険因子であった。

これらの知見は大腸癌の発育、進展を考える上で興味深く、また内視鏡的治療を行う際に有用な情報になると考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は、内視鏡的切除された 889 例の大腸腺腫患者において、高異型度腺腫をふくむ早期大腸癌を合併する危険因子を後方視的に解析した結果、患者背景因子としては、女性、多発する腺腫、高齢者、主訴に血便などが有意なものとして抽出され、腫瘍因子としては腺腫 10mm 以上、表面型、さらに左半結腸に存在することが有意であったことを報告している。

以上の結果は、大腸癌の発育・進展と内視鏡的治療を行なう上で注意喚起に繋がる貴重な業績である。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。